

(明治三十三年五月八日選信省認可)

縣

報

第拾七號

明治卅三年九月廿四日

和歌山縣

○縣令

○和歌山縣令第六十四號

炭疽熱發生ニ付左記ノ區域ヲ豫防線トシ牛馬羊豚ノ出入往來ヲ停止ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十三年九月十三日

一 那賀郡調月村字添田

一 圓

和歌山縣知事

小倉

久

○和歌山縣令第六十五號

明治三十三年^三月內務省令第十號第一條第二項ニ依リ明治三十三年^二法律第十五號飲食物其
ノ他ノ物品取締ニ關スル左ノ事項ハ警察官署ヲシテ之ヲ施行セシム
明治三十三年九月廿日

和歌山縣知事

小倉

久

一 物品ヲ檢査スルコト

二 試驗ノ爲メ必要ナル分量ニ限リ物品ヲ收去スルコト

三 小賣店^(露店ヲ含ム)

行商又ハ配達中ニ在ル物品ノ販賣使用ヲ禁止シ又ハ其ノ物品ヲ廢棄セ

シメ若ハ直接之ヲ廢棄スルコト

四 衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依ル處置ヲ許可スルコト

縣報第拾七號

明治三十三年九月二十四日

明治三十三年九月二十四日

○告示

○和歌山縣告示第百七十六號

由良要塞砲兵聯隊來ル十月一日ヨリ左ノ豫定ヲ以テ由良及鳴門方面ニ於テ海正面ノ縮射砲及實彈射擊施行スヘキ旨同聯隊ヨリ通知アリ危險ノ虞ナキ様警戒スヘシ

但射擊當時ハ其ノ附近認識シ易キ地點ニ警戒旗(赤旗)ヲ掲ケラル

明治三十三年九月十四日

和歌山縣知事 小倉久

自十月一日 六日間縮射砲射擊(鳴門方面ニ於テ) 至十月六日

自十月九日 六日間縮射砲射擊(由良方面ニ於テ) 至十月十四日

自十月廿四日 四日間縮射砲及實彈射擊(由良方面ニ於テ) 至十月廿七日

自十月廿九日 二日間實彈射擊(鳴門方面ニ於テ) 至十月三十日

○訓令

○和歌山縣訓令甲第九十六號

郡立尋常小學校准教員養成所ヲ設立セントスルトキハ左ノ準則ニ基ツキテ規則ヲ制定シ認

郡役所

可申請スヘシ

明治三十三年九月廿一日

和歌山縣知事 小倉久

郡立尋常小學校准教員養成所準則

第一條 本所ハ郡内教員ノ補充ヲ圖ランガ爲メ尋常小學校准教員タルヘキモノヲ養成スル
ヲ以テ目的トス

第二條 本所生徒ノ定員ヲ五十名以内トス

第三條 本所ハ郡長ノ監督ニ屬シ左ノ職員ヲ置ク

講 師

事 務 員

第四條 講師ハ師範學校中學校教員免許狀又ハ小學校本科正教員免許狀ヲ有スルモノニツ
キ郡長之ヲ囑託ス

事務員ハ郡吏員又ハ其他ノモノヨリ郡長之ヲ命ス

第五條 本所ノ修業期限ハ毎年五月ヨリ十月マテトシ授業總時數ハ四百五十時以上トス

第六條 本所ノ學科目及其程度ハ明治三十三年八月文部省令第十四號小學校令施行規則第
百十二條ニ準ス

第七條 本所ニ入學セントスルモノハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス
一 品行方正、身體健全ニシテ小學校教員トナルノ志望堅實ナルモノ

二 高等小學校三學年以上卒業ノモノ若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノ

第八條 生徒ニハ在學中一ヶ月金壹圓以上四圓以下ノ學費ヲ補給ス

第九條 在學中怠惰又ハ品行不其ノ他生徒タルノ本分ヲ賦ル行爲ニヨリ退學ヲ命シタル

モノハ其ノ補給ノ學費ヲ一時ニ償還セシム

第十條 本所ヲ卒業シタルモノハ無試験檢定ニ依リ尋常小學校准教員免許狀ヲ授與セラレ

トコトアルヘシ

第十一條 前條ニ依リ免許狀ヲ受得セシモノハ二ヶ年間郡内ニ於テ教員奉職ノ義務ヲ負フ

モノトス

第十二條 生徒心得寄宿舎生心得其ノ他必要ナル細則ハ別ニ定ムル所ニ依ル

○和歌山縣訓令甲第九十七號

那	郡	村	役	所
			役	場
		金		庫

明治三十三年四月和歌山縣令第三十四號和歌山縣稅徵收細則第十條ニ依リ稅金ヲ縣金庫ヘ納

付スルニ縣金庫遠隔ノ町村ニ在リテハ郵便爲換又ハ銀行爲換ヲ以テ納付スルコトヲ得但縣

金庫ニ於テハ爲換券ヲ現金ニ交換シタル上領受證書ヲ發スヘシ

明治三十三年九月廿一日

○和歌山縣訓令甲第九十七號參照

明治三十三年四月和歌山縣令第三十四號

和歌山縣知事 小倉 久

第十條 市町村收入役ニ領收シタル縣税金ハ其ノ翌日其ノ地ヲ發シ縣金庫ヘ納付スヘシ
前項税金確實ナル保護法ノ設ケアル市町村ハ納期中又ハ隨時賦課ニ係ル税金ニ限リ七日
以内其市町村ニ留置クコトヲ得

正 誤

本年七月縣令第五十九號中(大島港)ノ三字ハ衍
明治三十三年九月廿日

和 歌 山 縣

縣報第拾七號

明治三十三年九月二十四日

六終

明治三十三年九月廿三日印刷
明治三十三年九月廿四日發行

〔壹頁代價金
壹圓五毛〕

和歌山縣

印刷所

和歌山市九番丁九番地
印刷人 前川初之
和歌山市十二番丁十三番地
和歌山印刷株式會社